

# **EXPRESSBUILDER**

<b>EXPRESSBUILDER .....</b>	<b>1</b>
1. 概 要.....	1
2. バージョン 7 へのバージョンアップ .....	1
3. EXPRESSBUILDERの起動 .....	2
4. メニュー .....	3
5. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 7).....	6
6. バージョン 7 で追加された機能 .....	15
7. その他のバージョン 6 との違い .....	19
付録 1 EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6) .....	20
付録 2 組み込みキットとの機能比較 .....	29

# EXPRESSBUILDER

## 1. 概要

「EXPRESSBUILDER」を使うと、簡単に OS がインストールできたり、ハードウェアの接続チェックなどができたりします。また、バンドルソフトウェア、説明書についてもこのメディアで提供しています。

EXPRESSBUILDER は、バージョンにより操作などが異なります。本書では、おもにバージョン 7 について説明しています。

本書で使用している画面イメージなどは、出荷時期、バージョンによって変わる可能性があります。

### **EXPRESSBUILDER組込みキット**

「EXPRESSBUILDER 組込みキット」(オプション)を実装すると、外部メディアを使わずに起動することができます。また、EXPRESSBUILDER で使う各設定ファイルの保存先としても利用できます。

## 2. バージョン 7 へのバージョンアップ

2013 年 7 月以降出荷の新モデルでは、従来のバージョン 6 に代えてバージョン 7 にバージョンアップしています（モデルによってはバージョンアップしていないものがあります）。

バージョン 7 は、バージョン 6 に比べ、おもに次のような点が強化されています。

- a) ユーザーインターフェースの強化
- b) バージョン表示機能、統合インストール機能の追加
- c) Windows Server 2012 への対応

### **3. EXPRESSBUILDERの起動**

EXPRESSBUILDER は、次のいずれかの方法により起動することができます。

#### **DVD :**

標準添付の「EXPRESSBUILDER」と記載されたメディアから、次の2通りの方法で使うことができます。

- (1) Express5800 シリーズに実装されている光ディスクドライブへ DVD をセットし、再起動します(電源の OFF→ON、または<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押します)。

「4. メニュー」の(1) ブートメニューが起動します。

- (2) Windows が動作している任意のコンピューターへ DVD をセットします。

「4. メニュー」の(4) オートランメニューが起動します。

#### **内蔵フラッシュメモリ(オプション) :**

オプションの「EXPRESSBUILDER 組込みキット」が実装されていると、内蔵フラッシュメモリから起動することができます。

POSTにて次のメッセージが表示されているとき、<F3>キーを押します。このとき、光ディスクドライブからメディアを取り出しておいてください。

Press <F2> SETUP, <F3> Internal flash memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network

**POSTで「<F3> Internal flash memory」の表示がないとき**は、「メンテナンスガイド」の「EXPRESSBUILDERの詳細」に従って、内蔵フラッシュメモリの接続を確認してください。

内蔵フラッシュメモリが起動すると、「4. メニュー」の(1) ブートメニューが現れます。

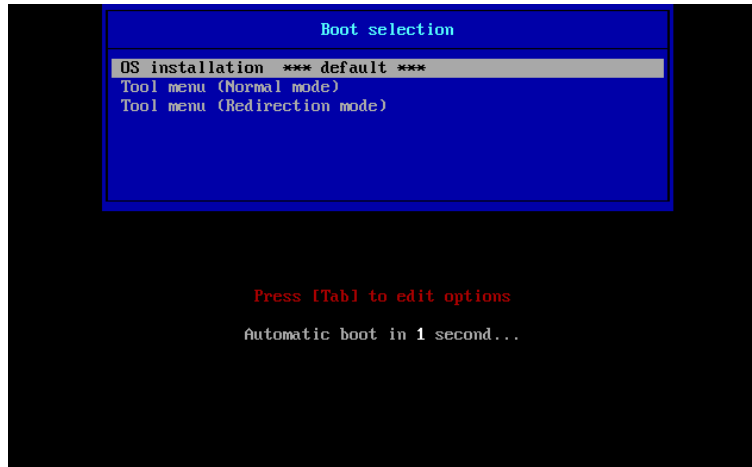
## 4. メニュー

EXPRESSBUILDER は、画面上のメニューから操作します。

### (1) ブートメニュー

DVD または内蔵フラッシュメモリを起動すると、次のようなメニューが現れます。

(バージョン 7 の画面例)



キーボードの矢印キー(<↑>、<↓>)で項目を選択し、<Enter>キーで決定してください。

何もキー入力がないと、デフォルトの[OS installation]が選択されます。

[OS installation]を選択すると (2)ホームメニューが現れます (バージョン 6 では「トップメニュー」)。

[Tool Menu (Normal mode)]を選択すると (3) ツールメニューが起動します。画面はディスプレイに表示されます。通常はこちらのモードを選択してください。

[Tool Menu (Redirection mode)]を選択すると、BIOS コンソールリダイレクション機能を使用してリモートで操作することができます。メニューの構成、起動できるツールについては、Normal mode と同じです。BIOS コンソールリダイレクション機能をサポートしていないモデルは、この項目はありません。

(2) ホームメニュー

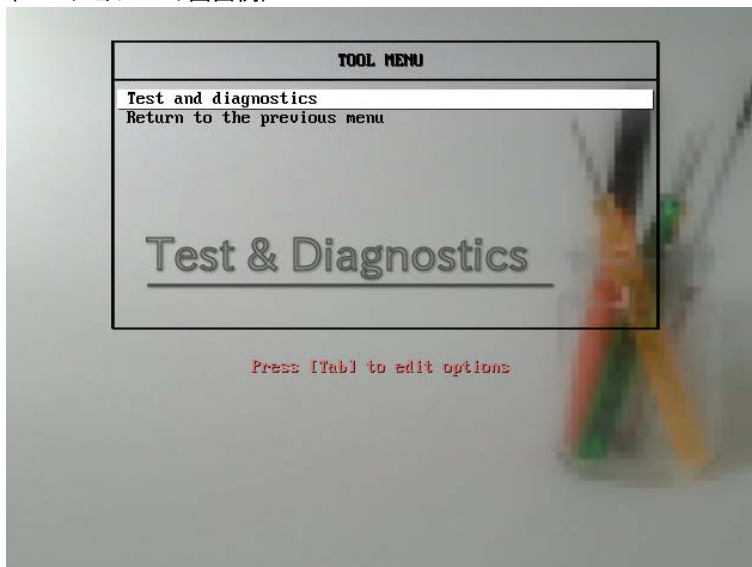
(バージョン7の画面例)



ホームメニューからは、マウスまたはキーボードを使って操作します。  
ここから、セットアップ用ウィザードや、ユーティリティが起動できます。

(3) ツールメニュー

(バージョン7の画面例)



ツールメニューからは、本機の診断と接続チェックをする「システム診断」が起動できます。

(バージョン 7 の画面例)



オートランメニューからは、説明書を参照したり、バンドルソフトウェアをインストールしたりします。説明書は PDF 形式のため、あらかじめ Adobe Reader をインストールしてください。

「統合インストール」を使うと、Starter Pack や ESM PRO を簡単にインストールできます。  
この機能を使うときは、ビルトイン Administrator でログインしてください。

## 5. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン7)

EXPRESSBUILDER バージョン7 を使ってサーバーをセットアップしたときの例について説明します。  
(バージョン6 の例については付録1 を参照してください)

ここでは、以下の条件でセットアップすることを想定します。

使用する EXPRESSBUILDER	: Version 7.10-001.01
対象マシン	: Express5800/GT110f-S
ハードディスクドライブ	: SATA HDD (500GB) 2 台
RAID コントローラー	: 内蔵(LSI Embedded MegaRAID)
RAID 構成	: RAID1 (ホットスペアなし)
論理ドライブ構成	: 1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域
インストール OS	: Windows Server 2012
インストール先パーティション	: 1 台めの全領域(100GB)
インストール方法	: カスタム、EXPRESSBUILDER を使う

### Step1 EXPRESSBUILDERの起動

- (1) サーバーの電源を ON にし、光ディスクドライブへ EXPRESSBUILDER をセットします。
  - (2) <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押してサーバーを再起動し、EXPRESSBUILDER を起動させます。
  - (3) ブートメニューから、[OS installation]を選択します。
  - (4) 言語の選択画面から、[日本語]を選択します。
- しばらくすると、「ホームメニュー」が起動します。

### Step2 セットアップ開始、OSの選択

- (1) ホームメニューで、[セットアップ]をクリックします。

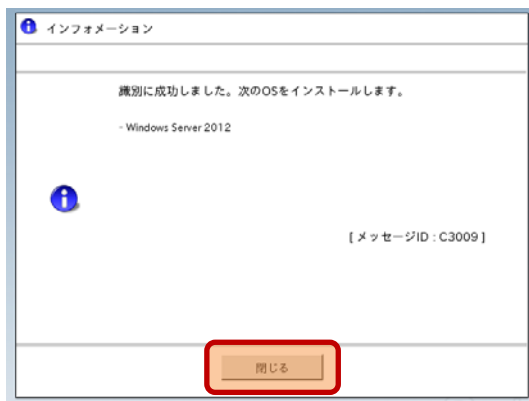




- (2) 次の画面では、[自動認識]をクリックします。以降、画面の指示に従い、Windows Server 2012 の「バックアップ DVD-ROM」をセットします。



- (3) 認識が成功すると、以下のようなメッセージが現れます。[閉じる]をクリックしてください。



- (4) アイコンをクリックして Step2 へ進みます。

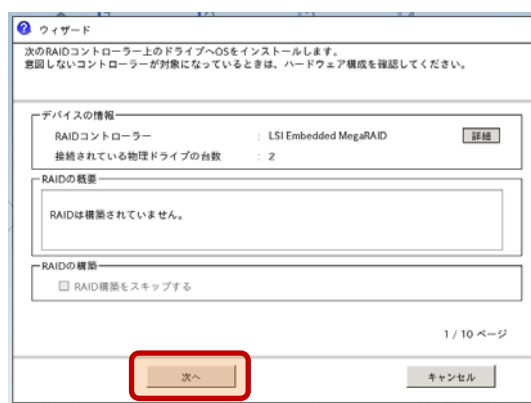


### Step3 設定の入力

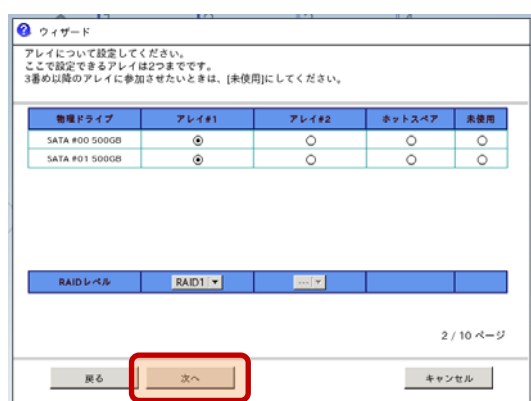
(1) [カスタム]をクリックします。



(2) [RAID の構築をスキップする]にチェックが入っていないことを確認し、[次へ]をクリックします。



(3) アレイ#1 に HDD が 2 台参加し、RAID レベルが RAID1であることを確認し、[次へ]をクリックします。



(4) 次の画面では、今回の条件(1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

ウィザード

論理ドライブのサイズを指定してください。  
論理ドライブ#1がOSインストール先となり、最大容量は約2TB(2047GB)です。  
ここでは、論理ドライブはアレイごとに2つまで作成できます。

アレイ #1

未使用領域: 0 GB

(論理ドライブ#1): OSインストール先

① 最大容量: 64 GB

② サイズ指定: 100 GB

③ 残り全領域: GB

サイズ指定

アレイ #2

未使用領域: GB

(論理ドライブ#3):

最大容量: GB

サイズ指定: GB

(論理ドライブ#4):

残り全領域: GB

サイズ指定: GB

※1TB=1024GBで計算します。

3 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

① 論理ドライブ#1 の[サイズ指定]をチェックします。

② テキストボックスへ 100 を入力します。

③ 論理ドライブ#2 の[残り全領域]をチェックします。

④ [次へ]をクリックします。

(5) [次へ]をクリックして次に進みます。

ウィザード

[Windows標準のインストーラーを使う]を選択すると、OSメディアに格納されている標準のインストーラーでインストールします。  
[EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする]を選択すると、アプリケーションも含めて一括してインストールできます。

基本設定

インストールするOS: Windows Server 2012

☐ Windows標準のインストーラーを使う

☐ リムーバブルメディアにOEMドライバーをコピーする

☒ EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする

エディション: StandardGUI標準サーバー

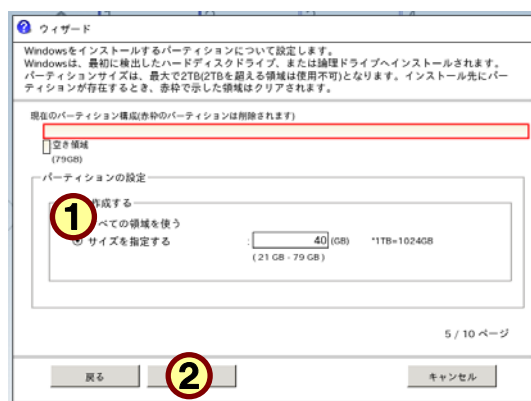
言語: 日本語

タイムゾーン: UTC+09:00 大阪、札幌、東京

4 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

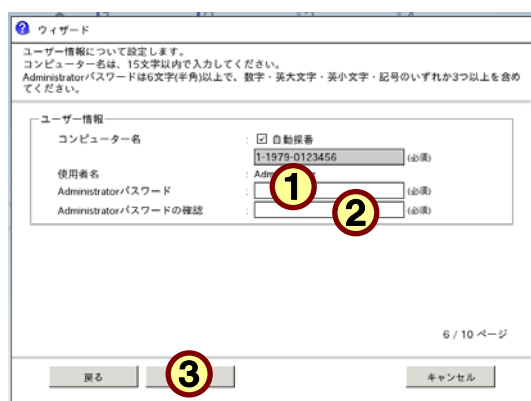
(6) 次の画面では、今回の条件(1 台めの全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。



① [すべての領域を使う]をチェックします。

② [次へ]をクリックします。

(7) 次の画面では、以下の手順でパスワードを設定します。

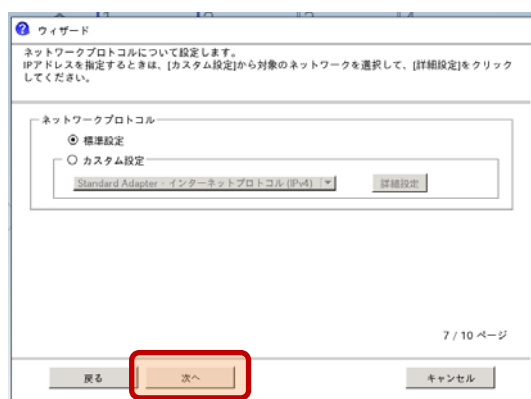


① [Administrator パスワード]へパスワードを入力します。

② [Administrator パスワードの確認]へ①で入力したパスワードを再度入力します。

③ [次へ]をクリックします。

(8) [次へ]をクリックして次に進みます。



(9) [次へ]をクリックして次に進みます。

ウィザード

参加するネットワークを指定します。  
ワークグループまたはドメインのいずれかを選択し、各項目を入力してください。

☒ ワークグループに参加する  
ワークグループ名 : WORKGROUP

☐ ドメインに参加する  
ドメイン名 :  
アカウント名 :  
パスワード :  
パスワードの確認 :

8 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

(10) [次へ]をクリックして次に進みます。

ウィザード

Windows コンポーネントについて設定します。  
有効化する Windows の機能とサーバの役割を選択してください。

サーバの役割

☐ Web サーバー (IIS) ☐ 印刷とドキュメント サービス  
☐ DHCP サーバー ☐ ファイル サービス  
☐ DNS サーバー ☐ Hyper-V

Windows の機能

☒ SNMP サービス   
☐ 簡易 TCP/IP サービス  
☐ WINS サービス

9 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

(11) [完了]をクリックしてウィザードを終了します。

ウィザード

インストールするアプリケーションを選択してください。  
各アプリケーションについては、[アプリケーションの説明]を参照してください。

追加可能なアプリケーション

追加アプリケーションのインストール

追加>> <<削除

選択されたアプリケーション

ESMPRO/ServerAgent  
エクスペレス 通信サービス  
エクスペレス 通信サービス (HTTPS)  
Universal RAID Utility  
Microsoft .NET Framework Version 3.5.1  
ExpressUpdate Agent

アプリケーションの説明

10 / 10 ページ

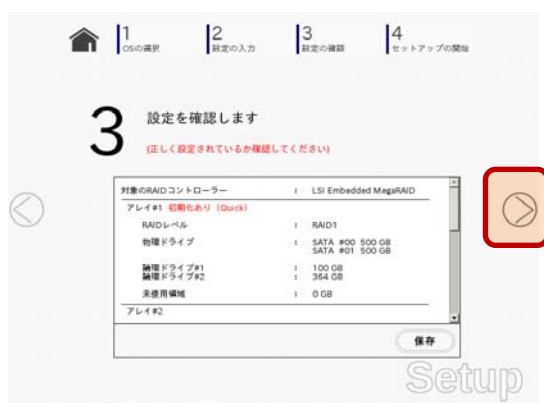
戻る 完了 キャンセル

(12) アイコンをクリックして Step3 へ進みます。



#### Step4 設定の確認とセットアップの実行

(1) 設定した内容が正しいか確認した後、アイコンをクリックして Step4 へ進みます。



(2) [開始]をクリックすると、セットアップが始まります。



セットアップが自動的に進みます。そのまま少しお待ちください（1分程度）。

(3) メッセージに従い、EXPRESSBUILDER DVD をドライブにセットして[OK]をクリックします。

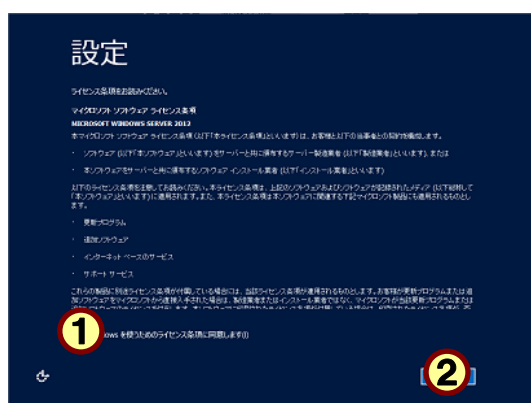
そのまま少しお待ちください（2～3 分程度）。

(4) メッセージに従い、Windows Server 2012 の「バックアップ DVD-ROM」をセットして[OK]をクリックします。

以降、セットアップが自動的に進みます。何回か再起動し、画面に何も映らないことがありますが、**何も操作をせず、そのまましばらくお待ちください**（40～50 分程度）。

## Step5 Windowsへのサインイン

(1) セットアップが進むと、次の画面で停止します。



① [Windows を使うためのライセンス条項に同意します]をチェックします。

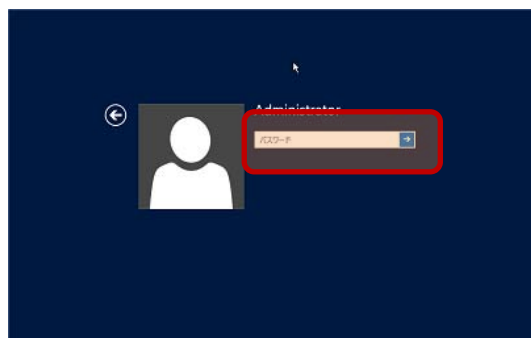
② [同意する]をクリックします。

(2) <Ctrl> + <Alt> + <Del>キーを押します。



(3) 次の画面では、テキストボックスへ 10 ページ(7)で設定したパスワードを入力し、<Enter>キーを押します。

サインイン処理が進みますので、そのまま少しお待ちください（1 分程度）。



- (4) セットアップが完了すると、次のような画面が現れます。  
[OK]をクリックしてください。



以上で、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップは完了です。



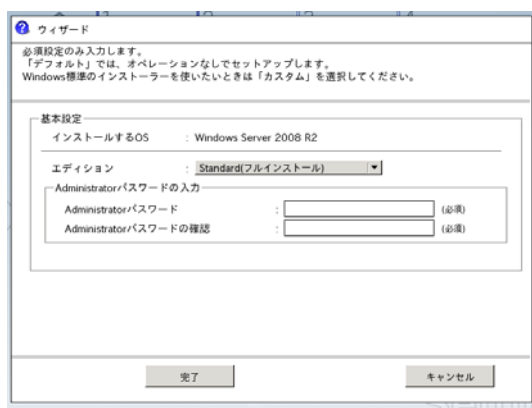
## 6. バージョン7 で追加された機能

### デフォルトインストール

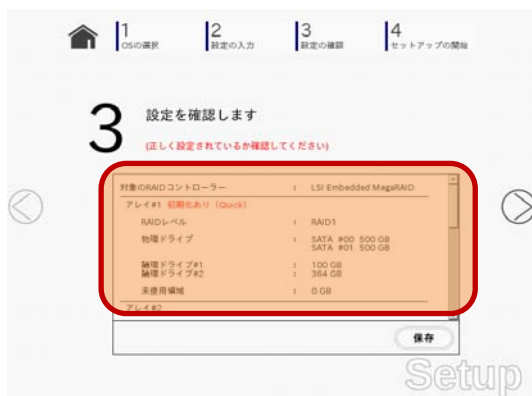
「セットアップ」から[デフォルト]を選択すると、最低限の入力でセットアップが完了します。



Windows の場合、以下のように、Administrator パスワードのみ入力することで完了します。それ以外の項目はデフォルトでインストールします。

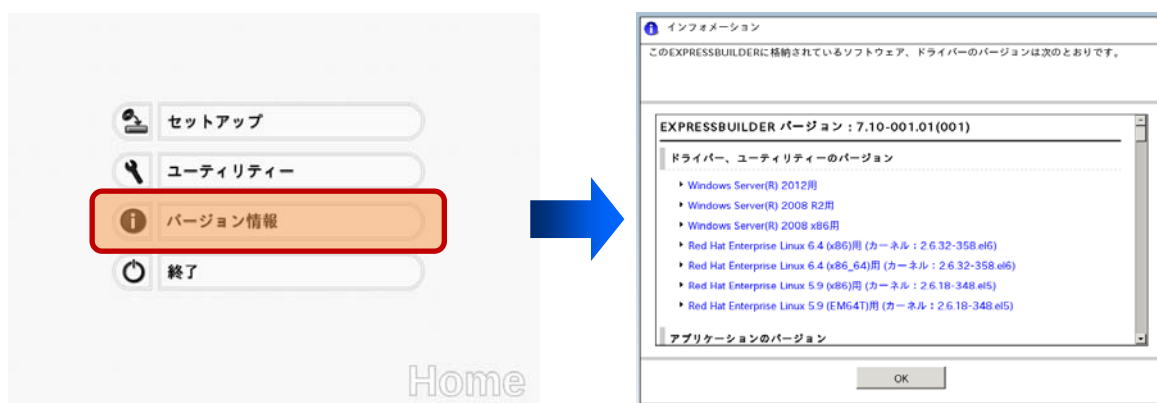


設定の内容については、次の画面（3 設定の確認）で確認します。



## バージョン表示、出力

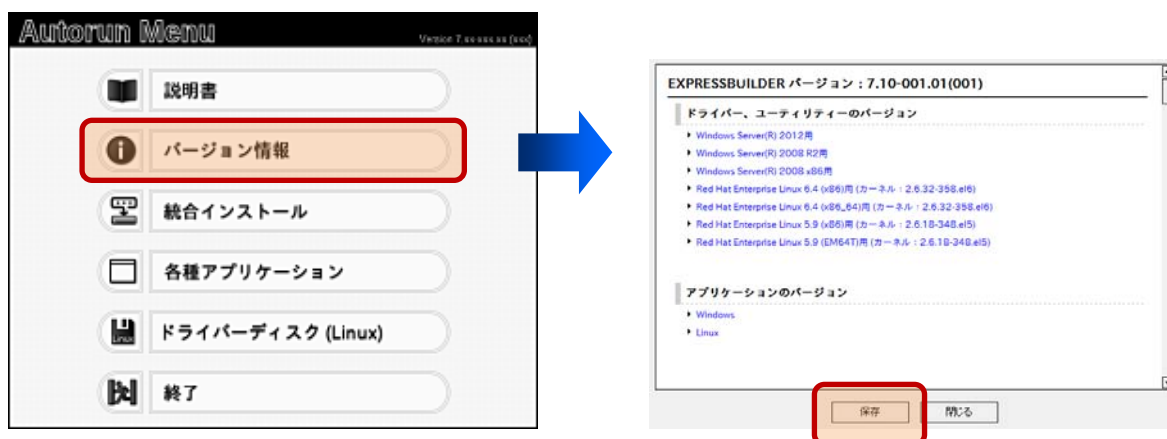
- a) ホームメニューから「バージョン情報」をクリックすると、EXPRESSBUILDER に格納しているドライバーなどのバージョンを見ることができます。



ここで確認できるバージョンは以下となります。

- ・ EXPRESSBUILDER
- ・ Starter Pack
- ・ ドライバー
- ・ ドライバーに付属するユーティリティ (Intel PROSet など)
- ・ アプリケーション (ESMPRO など)

- b) オートランメニューからも確認ができます。このとき、外部メディアにファイル出力ができます。



起動したダイアログボックスから、[保存]をクリックします。csv または xml 形式でファイルに保存できます。

Starter Pack や各種アプリケーションをインストールする機能です。一度に複数のアプリケーションをインストールすることができます。

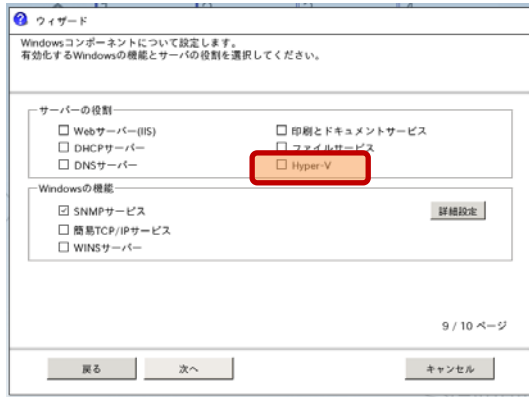
- [illegible]

- 
- 次のソフトウェアをインストールします。
- Starter Packがインストールのときは、アプリケーションは選択できません。
  - インストール済みのアプリケーションは、アンインストールしないインストールできません。
- ★ Starter Pack
- アプリケーション
- ☒ ESMPRO/ServerAgent
  - ☐ エクスプレス連絡サービス
  - ☐ エクスプレス連絡サービス(HTTP)
  - ☐ Universal RAID Utility
  - ☐ 装置情報の集約ユーティリティ
  - ☐ ExpressUpdate Agent
- インストール キャンセル

## 仮想化への対応

a) Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 のとき、Hyper-V を有効化してインストールできます。

有効化するときは、「カスタム」の以下のウィザードから選択します。



b) VMware のメディアチェックができます。

OS の選択で VMware のインストールディスク（NEC 製のみ）を自動認識します。

また、「手動設定」にも VMware の項目があります。



EXPRESSBUILDERは、VMwareのインストールに関するパラメーター設定などを実施しません。VMwareインストールの詳細については、インストールディスクに添付のドキュメントを参照してください。

## 7. その他のバージョン 6 との違い

以下の機能は削除されました。

(a) USB リムーバブルメディアの取り外し機能

- ・特別な操作をしなくても、USB リムーバブルメディアはいつでも取り外すことができます。

(b) EXPRESSBUILDER へのドライバロード機能

- ・プラットフォーム変更に伴い本機能は削除されました。

(c) 既存パーティションへのインストール機能

- ・プラットフォーム変更に伴い本機能は削除されました。

## 付録 1 EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6)

EXPRESSBUILDER バージョン 6 を使ってサーバーをセットアップしたときの例について説明します。  
ここでは、以下の条件でセットアップすることを想定します。

使用する EXPRESSBUILDER	: Version 6.10-020.01
対象マシン	: Express5800/GT110d-S
ハードディスクドライブ	: 2.5 型 SAS HDD 3 台
RAID コントローラー	: N8103-130
RAID 構成	: RAID5 (ホットスペアなし)
論理ドライブ構成	: 1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域
インストール OS	: Windows Server 2008 R2
インストール先パーティション	: 1 台めの全領域(100GB)
インストール方法	: EXPRESSBUILDER を使う

### Step1 EXPRESSBUILDERの起動

- (1) サーバーの電源を ON にし、光ディスクドライブへ EXPRESSBUILDER をセットします。
- (2) <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押してサーバーを再起動し、EXPRESSBUILDER をブートさせます。
- (3) ブートメニューが現れますので、[Os installation]を選択します。
- (4) 言語の選択画面が現れますので、[日本語]を選択します。
- (5) ソフトウェアの仕様許諾画面が現れますので、内容を確認して[はい]を選択します。

### Step2 RAIDの設定

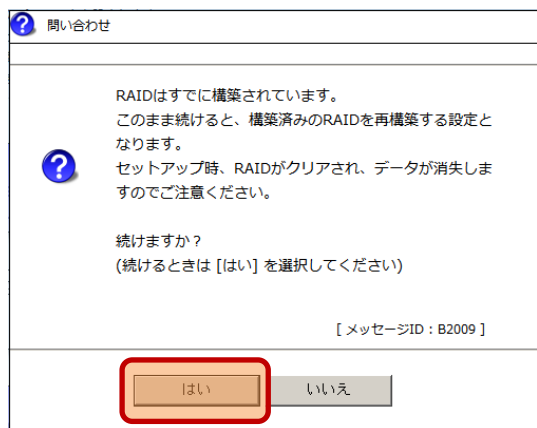
- (1) トップメニューで、[セットアップする]をチェックし、[次へ]をクリックします。
- (2) 次の画面では、今回インストールする OS(Windows Server 2008 R2)がデフォルトとして設定済みのため、そのまま[次へ]をクリックします。



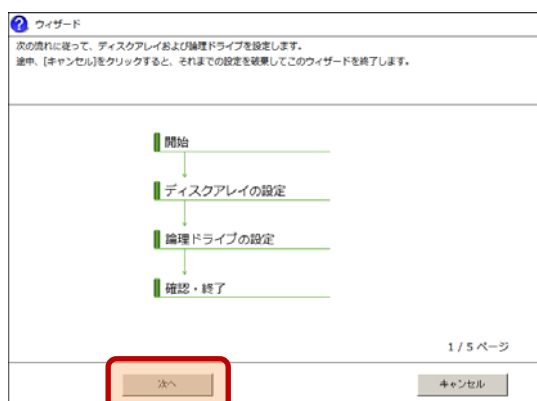
- (3) 次の画面で「RAID の設定」カテゴリを確認すると、RAID1 に設定(デフォルト値)されているため、[設定]をクリックしてウィザードを起動します。



- (4) 確認の画面が現れたときは、[はい]を選択して次に進みます。



- (5) [次へ]を選択して次に進みます。



(6) [次へ]を選択して次に進みます。

**2**   **ウィザード**

次のRAIDコントローラに対して、ディスクアレイおよび論理ドライブを設定します。  
 問題なければ次に進んでください。  
 もし、意図しないコントローラが対象になっているときは、ハードウェアの接続状況などを確認してください。

---

RAIDコントローラ	: LSI MegaRAID SAS 9264-Bi	<b>詳細</b>
接続されている物理デバイスの台数	: 3	

2 / 5 ページ

戻る
次へ
キャンセル

(7) 次の画面では、今回の条件(RAID5、ホットスペアなし)に合致するように、以下の手順で設定します。

**② ウィザード**

ディスクレイについて設定してください。なお、このウィザードで構成できるディスクレイは2つまでです。  
物理デバイスをディスクレイの3番目の以降に参加させたいときは、ここでは[未使用]としてください。

物理デバイス	ディスクレイ#1	ディスクレイ#2	ホットスワップ	未使用
SAS #01 126.2GB	ⓐ	ⓒ	ⓒ	ⓒ
SAS #02 136.2GB		ⓒ	ⓒ	
SAS #03 136.2GB		ⓒ	ⓓ	ⓒ

**RAIDレベル**

Ⓐ Ⓑ [ ] [ ] [ ] [ ]

3 / 5 ページ

戻る ③ キャンセル

- ① ディスクアレイ#1 の列にすべての物理デバイスを参加させます。
- ② RAID レベルを RAID5 に変更します。
- ③ [次へ]をクリックします。

(8) 次の画面では、今回の条件(1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

**2** **ウィザード**

論理ドライブのサイズを指定してください。

論理ドライブ#1がOSインストール先となり、最大容量は2TB(2048GB)です。

なる、このウィザードでは、論理ドライブは、各ディスクレイアウト2つまで作成できます。

---

**ディスクレイアウト #1**

未使用領域: 0 GB

(論理ドライブ#1): OSインストール先

**1** 最大容量を指定する 0 GB

**3** サイズを指定する 0 GB

2 ドライブ#2): 0 GB

金領域を指定する 0 GB

サイズを指定する 0 GB

**ディスクレイアウト #2**

未使用領域: 0 GB

(論理ドライブ#3): 0 GB

最大容量を指定する 0 GB

サイズを指定する 0 GB

(論理ドライブ#4): 0 GB

残り金領域を指定する 0 GB

サイズを指定する 0 GB

※1TB=1024GBで計算します。

4 / 5 ページ

戻る
**4**
キャンセル

- ① 論理ドライブ#1 の[サイズを指定する]をチェックします。
- ② テキストボックスへ 100 を入力します。
- ③ 論理ドライブ#2 の[残り全領域を指定する]をチェックします。
- ④ [次へ]をクリックします。



(9) [完了]を選択してウィザードを終了します。

ウィザード

RAIDの設定が完了しました。  
初期化で「BG1(バックグラウンドイニシャライズ)」となっているときは、初期化完了までディスクアレイに負荷がかかります。  
次の設定で問題なければ、[完了]をクリックしてウィザードを終了させてください。

対象RAIDコントローラ : LSI MegaRAID SAS 9264-8i

ディスクアレイ #1 : 初期化あり(BG1)

RAIDレベル : RAID5

物理デバイス : SAS #01 136.2GB  
SAS #02 136.2GB  
SAS #03 136.2GB

論理ドライブ#1 : 100GB

論理ドライブ#2 : 172GB

5 / 5 ページ

戻る 完了

### Step3 Windowsの設定

(1) 次の画面で「Windows の設定」カテゴリを確認すると、「！」表示となっているため、[設定]をクリックしてウィザードを起動します。

NEC EXPRESSBUILDER Version 6.10-020.01(020)

セットアップについてのパラメータを設定します。  
[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。  
[標準]をクリックすると、設定したパラメータを標準に戻すことができます。  
[注意]「！」の表示があるときは次へ進むことができません。[設定]をクリックして適切なパラメータを設定してください。

デフォルト値について

RAID の設定 OK

ディスクアレイ1  
RAID5(3軸)  
論理ドライブ1 (272GB) : システムパーティション (40GB)

デフォルト 設定 スキップ

Windows の設定

ユーザー情報 ネットワークの設定 コンポーネントの設定

デフォルト設定 デフォルト設定 デフォルト設定

設定

アプリケーション の設定 OK

インストールするアプリケーション

デフォルト設定 設定

戻る 次へ 保存する 取り消す

(2) [次へ]を選択して次に進みます。

ウィザード

次の流れに従って、Windowsインストールに必要なパラメータを設定します。  
[OS標準のインストーラを使う]を選択すると、このウィザードでパラメータ設定せずに、OS標準のインストーラを使ってデフォルトパラメータ入力することになります。

開始

Windowsの基本設定 OS標準のインストーラを使う

パーティションの設定

ユーザー情報の設定

ネットワークの設定

コンポーネントの設定

確認・終了

1 / 8 ページ

次へ キャンセル

(3) [次へ]を選択して次に進みます。

ウィザード

[OS標準のインストーラを使う]を選択すると、OSメディアに格納されている標準のインストーラでインストールします。そのとき、ESMPROなどのアプリケーションはインストールされませんので、OSインストール後、個別にインストールしてください。  
[EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする]を選択すると、アプリケーションも含めて一括してインストールできます。

基本設定

インストールするOS : Windows Server 2008 R2

☐ OSのインストーラを使用する  
☒ リムーバブルメディアにOEMドライバをコピーする  
☒ EXPRESSBUILDERを使用してセットアップする

エディション : [Standard(フルインストール)]  
言語 : [日本語]  
タイムゾーン : [UTC+09:00] 大抵、札幌、東京

2 / 8 ページ

戻る 次へ キャンセル

(4) 次の画面では、今回の条件(1 台めの全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

ウィザード

Windowsをインストールするパーティションについて設定します。  
Windowsは、最初に検出したハードディスクドライブ、または論理ドライブをインストールします。パーティションサイズは、最大で2TB (2TBを超える領域は使用不可)となります。インストール前にパーティションが存在するとき、赤枠で示した領域はクリアされます。

現在のパーティション構成(赤枠のパーティションは削除されます) :

空き領域 (100GB)

パーティションの設定

☒ 既存のパーティションを使う  
☒ 新規に作成する

1 領域を使用する  
サイズを指定する : 40 (GB) \* 1TB = 1024GB (15GB - 100GB)

3 / 8 ページ

戻る 次へ キャンセル

① [全領域を使用する]をチェックします。

② [次へ]をクリックします。

(5) 次の画面では、以下の手順でパスワードを設定します。

ウィザード

ユーザー情報について設定します。  
コンピュータ名は、15文字以内で入力してください。  
Administrator/パスワードは8文字(半角)以上で、数字・英大文字・英小文字・記号のいずれか3つ以上を含めてください。

ユーザー情報

コンピュータ名 : [Mcod-0123456] (必須) ☒ 自動採番  
使用名 : Administ  
Administrator/パスワード : 1 (必須) ①  
Administrator/パスワードの確認 : 2 (必須) ②

4 / 8 ページ

戻る 次へ キャンセル

① [Administrator パスワード]へパスワードを入力します。

② [Administrator パスワードの確認]へ①で入力したパスワードを再度入力します。

③ [次へ]をクリックします。

(6) [次へ]を選択して次に進みます。

**ウィザード**

ネットワークプロトコルについて設定します。  
IPアドレスを指定するときは、[カスタム設定]から対象のネットワークを選択して、[詳細設定]をクリックしてください。

ネットワークプロトコル

☒ 標準設定

☐ カスタム設定

[Standard Adapter - インターネットプロトコル (IPv4)] [詳細設定]

5 / 8 ページ

戻る **次へ** キャンセル

(7) [次へ]を選択して次に進みます。

**ウィザード**

参加するネットワークを指定します。  
ワークグループまたはドメインのいずれかを選択し、各項目を入力してください。

☒ ワークグループに参加する

ワークグループ名 : [WORKGROUP]

☐ ドメインに参加する

ドメイン名 : [ ]

アカウント名 : [ ]

パスワード : [ ]

パスワードの確認 : [ ]

6 / 8 ページ

戻る **次へ** キャンセル

(8) [次へ]を選択して次に進みます。

**ウィザード**

Windowsコンポーネントについて設定します。  
有効化するWindowsの機能とサーバーの役割を選択してください。

サーバーの役割

☐ Webサーバー(IIS)

☐ DHCPサーバー

☐ DNSサーバー

☐ ファイルサービス

☐ 印刷とドキュメントサービス

Windowsの機能

☒ SNMPサービス [詳細設定]

☐ Simple TCP/IP Services

☐ WINSサーバー

7 / 8 ページ

戻る **次へ** キャンセル

(9) [完了]を選択してウィザードを終了します。

ウィザード

Windowsインストールについての設定が完了しました。  
次の設定で問題なければ、[完了]をクリックしてウィザードを終了させてください。

インストールOS : Windows Server 2008 R2

(EXPRESSBUILDERを使用してセットアップする)

エディション : Standard(フルインストール)

言語 : 日本語

タイムゾーン : (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京

パーティション : 新規に作成する(100GB)

8 / 8 ページ

戻る 完了

#### Step4 セットアップの実行

(1) 次の画面で[次へ]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER Version 6.10-020.01(020)

セットアップについてのパラメータを設定します。  
[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。  
[保存する]をクリックすると、設定したパラメータを保存することができます。  
(注意)「!」の表示があるときは次へ進むことができません。[設定]をクリックして適切なパラメータを設定してください。

デフォルト値について

RAIDの設定 OK デスクアレイ1 RAID5(3枚) [デフォルト] [設定] [スキップ]

Windowsの設定 OK ユーザー情報 ネットワークの設定 コンポーネントの設定 [デフォルト] [設定]

アプリケーションの設定 OK インストールするアプリケーション デフォルト設定 [デフォルト] [設定]

戻る 次へ 保存する 取り消す

(2) 次の画面で[実行する]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER Version 6.10-020.01(020)

セットアップの準備が完了しました。  
[実行する]をクリックすると、セットアップが始まります。

実行するステップ

- \* RAIDの構築
- \* パーティションの作成
- \* ファイルのコピー
- \* メディアの入れ替え
- \* OS、アプリケーションのインストール

セットアップの概要

RAID構築  
構築済み  
※データはクリアされます。

パーティション  
新規で作成する

インストールOS  
Windows Server 2008 R2 Standard(フルインストール)

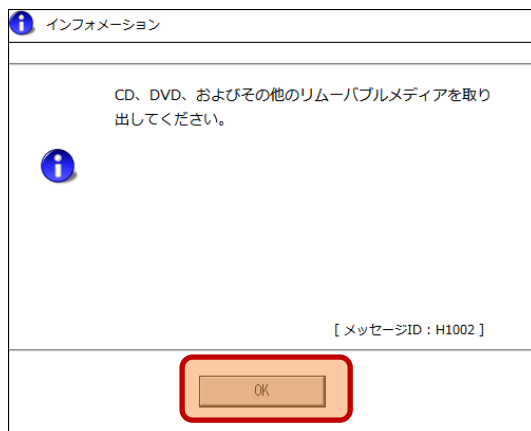
インストールするアプリケーション  
ESMPRO/ServerAgent  
エクステンション更新サービス  
エクステンション更新サービス(HTTP/HTTPS)  
NECからのお知らせ

戻る 実行する 取り消す

セットアップが自動的に進みます。そのまま少しお待ちください（3分程度）。

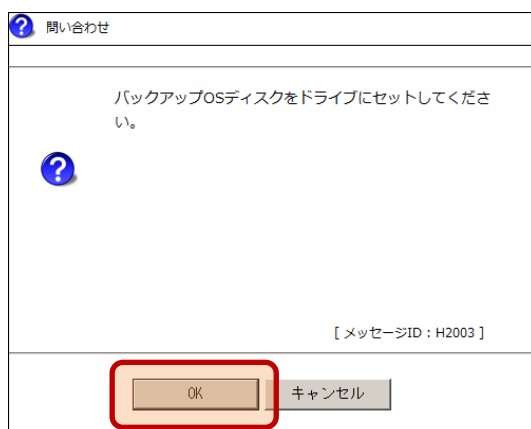
(3) セットアップが進むと、次のようなダイアログボックスが現れます。

サーバーにセットした EXPRESSBUILDER を取り出し、[OK]をクリックしてください。



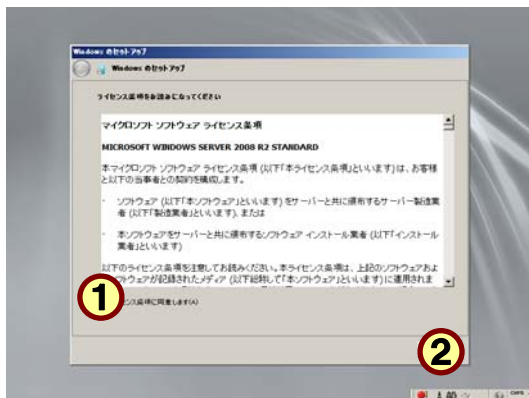
(4) 次のようなダイアログボックスが現れます。

Windows Server 2008 R2 の「バックアップ DVD-ROM」をサーバーにセットし、[OK]をクリックしてください。



以降、再びセットアップが自動的に進みます。そのまましばらくお待ちください（50 分程度）。

- (5) 次のような確認画面が現れます。  
内容を確認の上、次へ進みます。



- ① [ライセンス条項に同意します]をチェックします。  
② [開始]をクリックします。

- (6) ログイン画面が現れます。  
Step3 で設定したパスワードを使ってログインします。



- (7) 終了画面が現れます。



以上で、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップは完了です。

## 付録 2 組み込みキットとの機能比較

### ◎標準添付の EXPRESSBUILDER(DVD)と EXPRESSBUILDER 組み込みキットの機能比較

	EXPRESSBUILDER(DVD)	EXPRESSBUILDER 組み込みキット
<b>セットアップ</b>		
Windows のセットアップ	○	○
Starter Pack の適用	○	○
Linux シームレスセットアップ *1	○	○
Linux マニュアルセットアップ	○	-
<b>バンドルソフトウェア</b>		
ESMPRO/ServerAgent のインストール	○	○
エクスプレス通報サービスのインストール	○	○
ESMPRO/ServerManager のインストール	○	-
ESMPRO/ServerAgent Extensiton のインストール	○	-
ExpressUpdateAgent のインストール	○	-
Universal RAID Utility のインストール	○	○
<b>その他</b>		
ドキュメント(ユーザズガイド)の閲覧	○	-
POST からの起動(DVD ドライブがなくとも起動可能)	-	○
システム診断(T&D)の実行	○	○

※○対応 -非対応

\*1 別途サービスセットの購入が必要です。